

はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であった。この一年の活動を簡単に記録しておく。今年度の入局者は、岡部友香さん、武田里美さん、榊絢朱さん、横矢悠馬君である。優秀な若手で将来に責任を感じている。田村准教授はコロナ対策の最前線で活躍した。西川准教授は医療情報部部長として病院システムの根幹に関わった。村田講師は病棟長としてコロナ禍における病棟運営に尽力した。蒸野助教は若手指導に熱心に取り組み、来年度から卒後臨床研修センター副センター長を兼務する。細井助教は外来医長をやりつつ、シンガポールでの成果を論文化した。各教員には大学人として臨床・研究・教育に活躍していただきたい。【臨床】新型コロナウイルス感染症の影響で外来患者延べ数は7.7%減（令和2年4月から3年1月。病院全体7%減）、入院患者延べ数は1.4%減（同期間。病院全体4.1%減）であった。入院患者数減少幅は小さく、これは病棟長の努力による。入院患者における高齢者や骨髄異形成症候群患者の増加を実感している。この数年で同種造血幹細胞移植は軌道にのった。今後CAR-T療法等を導入し移植後再発や移植不適例に対する治療成績を向上させたい。一方、当科の重要な診療分野であるHIV感染症診療には小泉祐介病院教授（感染制御部）に加わって頂いた。【研究】今年度は田村准教授、山下学内助教が科研費を取得した。山下学内助教は英文論文をまとめ博士号を取得した。小浴秀樹君が大学院に入学した。当教室所属者が筆頭著者である英文論文（原著、レター）は5編である。研究の成果を英文にすることが重要である。【教育】コロナによる影響が甚大だった。臨床実習は3日間となり十分な指導ができなかった。選択ポリクリ生には患者役と医師役にわけ模擬診療を行わせるとともに、一般向けの血液疾患解説動画（英語版）や患者体験記（動画）を視聴させた。単なる座学にならないように工夫したつもりである。また、今年度は内科専攻プログラムについて深く勉強する機会があった。内科プログラムの広範さを考えると事務的サポートが必須である。来年度からは専門研修の事務的サポートが本格的に稼動する。

コロナ第一波が収まりつつあった昨年初夏にビルゲイツ氏の「ワクチンなしには日常は戻らない」（文藝春秋2020年7月号）を読んだ。同氏は以前から新興感染症の脅威を唱えワクチン開発に多額の資金を投じていた。記事を読んだ当時はワクチンがなくてもやがて収まっていくとたかをくくっていたが、今またこの記事を読み返すとまさに同氏が予言したようになっている。世界的な経営者の先見の明はすごいものだと大変感銘をうけた。ともかく以前のように和気藹々と会食ができる日が待ち遠しい。

本年度5西病棟師長には向友代師長が昇任されました。病棟の運営に目が行き届いていると感じることが多々あって頼もしい限りです。手のかかる入院患者さんが多く、向師長をはじめとする5西スタッフの皆様に感謝申し上げます。また、保田裕子師長をはじめとする11東スタッフには緊急入院や重症患者も診ていただいております。外来スタッフ、HCTCの上田かやこさん、松浪美佐子主任をはじめとする輸血部スタッフ、医局の矢田尚子さん・花井宏実さん、この場をかりて深謝申し上げます。

令和3年3月 園木 孝志

令和2年度ローテート初期研修医

今年度、下記の初期研修医（敬称略）が当科をローテートしてくれた。研修医の皆さんの働きにとっても感謝している。若い方々の真摯な診療態度は迎えている私達にも良い影響を与えている。初期研修医の皆さんには血液内科での経験を今後に役立てていただきたい。

天野 雄登（2020. 4月～ 6月）、池田 裕美子（2020. 4月～ 6月）、小山 一葉（2020. 4月～ 6月）、太根 美聡（2020. 4月～ 6月）、寺本 寛（2020. 6月）、藤原 有希（2020. 7月～ 8月）、南野 和佳（2020. 7月～ 8月）、稲田 薫（2020. 8月～ 9月）、今地 美帆子（2020. 8月）、立石 華穂（2020. 9月～ 10月）、加藤 勇冴（2020. 9月～ 10月）、森 佑熙（2020. 9月～ 11月）、中井 真衣（2020. 11月～12月）、中井 一磨（2020. 11月～12月）、根來 和宏（2020. 11月～12月）、石本 杜樹（2021. 1月）、大道 竜也（2021. 1月）、蛭間 陽平（2021. 1月）、谷河 育朗（2021. 1月～3月）、内藤 智美（2021. 2月）、大江 直（2021. 2月～3月）、岡村 雅（2021. 3月）。

園木孝志

2 教室現況

(1) 教室員

医局	教授	園木 孝志	
	准教授	田村 志宣	
	講師	村田 祥吾	
	助教	細井 裕樹	
	助教	蒸野 寿紀	
	学内助教	山下 友佑	
	学内助教	弘井 孝幸	
	学内助教・大学院生	小浴 秀樹	
	学内助教	榊 絢朱	
	学内助教	武田 里美	
	学内助教	横矢 悠馬	
	自治医大卒研修生	栩野 祐一	
	事業担当補助員	花井 宏実	
	秘書	矢田 尚子	
輸血部	准教授	西川 彰則	
	主任	松浪 美佐子	
	主査	堀端 容子	
	主査	中島 志保	
	副主査	富坂 竜矢	
	医療技師	鈴木 誠也	(2020. 5 月～)
	医療技師	熊代 梓	(～2020. 4 月)
	移植コーディネーター	上田 かやこ	
	研修医	天野 雄登	(2020. 4 月～ 6 月)
		池田 裕美子	(2020. 4 月～ 6 月)
		小山 一葉	(2020. 4 月～ 6 月)
		太根 美聡	(2020. 4 月～ 6 月)
		寺本 寛	(2020. 6 月)
		藤原 有希	(2020. 7 月～ 8 月)
		南野 和佳	(2020. 7 月～ 8 月)
		稻田 薫	(2020. 8 月～ 9 月)
		今地 美帆子	(2020. 8 月)
		立石 華穂	(2020. 9 月～ 10 月)

加藤 勇冴	(2020. 9 月～ 10 月)
森 佑熙	(2020. 9 月～ 11 月)
中井 真衣	(2020. 11 月～12 月)
中井 一磨	(2020. 11 月～12 月)
根來 和宏	(2020. 11 月～12 月)
石本 杜樹	(2021. 1 月)
大道 竜也	(2021. 1 月)
蛭間 陽平	(2021. 1 月)
谷河 育朗	(2021. 1 月～3 月)
内藤 智美	(2021. 2 月)
大江 直	(2021. 2 月～3 月)
岡村 雅	(2021.3 月)

(2) 人事異動

採用

学内助教	岡部 友香	(2020. 4 月 1 日～)
学内助教	榊 絢朱	(2020. 4 月 1 日～)
学内助教	武田 里美	(2020. 4 月 1 日～)
学内助教	横矢 悠馬	(2020. 4 月 1 日～)
自治医大卒研修生	棚野 祐一	(2020. 4 月 1 日～)
学内助教	弘井 孝幸	(2020. 7 月 1 日～)
学内助教	小浴 秀樹	(2020. 7 月 1 日～)

退職

学内助教	岡部 友香	(～2020. 6 月 30 日)
学内助教	吉田 菊晃	(～2020. 6 月 30 日)
学内助教	田中 顕	(～2020. 6 月 30 日)
学内助教	大岩 健洋	(～2020. 6 月 30 日)

業務分担（2020年度）

2020.4月～

<p>1. 科長・教育主任: 園木 (副科長: 田村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義, 試験の管理, 学生オーガナイザー(4年生)、卒業試験(6年生)、依頼問題作成 ・病棟実習(必修や選択実習、症例選択)の支援(病棟医長と協力) ・臨床実習ディレクター ・卒後臨床研修センター長(平成28年4月～) ・生涯研修センター長(平成28年4月～) ・更正医療担当 ・和歌山県原爆被爆健康管理手当て等認定医 ・和歌山県身体障害者福祉専門分科会審査部会委員 ・和歌山県エイズ対策推進協議会委員
<p>2. 医局長・研究主任: 田村 (副医局長: 西川)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書支援(採用と更新と検診、薬説明会、年報、home page、研究費申請) ・研究会(主宰の講演会、学会) ・行事(入局案内、歓送迎会、花見、暑気払、忘年会、医局旅行) ・会議の主導(医局会議) ・研究室運営(機器や試薬管理など基盤整備と配分、安全指導など) ・研究打合せ、学会予行、研究費やIRB申請の支援 ・試薬管理責任者 ・感染対策マネージャー
<p>3. 病棟医長: 村田 (副病棟医長: 田村)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床運営(入・退院、主治医指名、他科交渉) ・管理(回診、学生実習、当直医・日誌、レセプト、臨床試験、剖検) ・検討会(死因検討会) ・危機管理(医療ミス、事件、感染対策、緊急連絡、災害訓練、投書対応) ・リスクマネージャー ・保険請求担当(DPC,入院) ・保険請求担当者会議
<p>4. 外来医長: 細井 (副外来医長: 蒸野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・診療担当医表、レセプト、外来診療用コンピューターの管理 ・外来の危機管理(苦情、事故、外来診療相談・クラーク指導責任医師など) ・移植調整医師 ・保険請求担当(外来) ・オーダーリングシステム入力責任者(主) ・予約メンテナンス管理責任者(主)
<p>5. 副外来医長: 村田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移植調整医師 ・職場研修委員会 ・症例検討会(CCポイントコメント) ・抄読会
<p>6. その他</p> <p>1) 園木</p>	<p>病院委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療安全推進部(重大事故調査委員会) 感染制御部(感染制御部運営委員会・感染予防対策員会) 薬剤部(薬剤部運営委員会・薬事委員会) 輸血部(輸血療法委員会) リハビリテーション部(リハビリテーション部運営委員会) 医事課(エイズ診療対策委員会・脳死臓器移植対策委員会) 経理課(科長会、腫瘍センター運営、腫瘍センター放射線治療、中央手術部運営、放射線安全、病院機能評価認定更新対策) <p>医学部委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究推進課(研究活動活性化委員会、遺伝子組換え実験安全委員会委員、遺伝子解析研究に関する倫理審査) 地域医療支援センター(内科専門研修プログラム研修委員会)
<p>2) 田村</p>	<p>病院委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部(レジメン審査委員会) 経理課(腫瘍センター薬物療法委員会・がんゲノム医療委員会) 研究推進課(共同利用施設管理運営委員会) 地域医療支援センター(内科専門研修プログラム研修委員会)
<p>3) 西川 (医療情報部部長)</p>	<p>病院委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸血部(輸血療法委員会) 経理課(医療情報部運営委員会) ・和歌山県骨髄移植対策協議会委員 ・移植調整医師・委嘱連絡医師 ・和歌山県献血推進協議会 ・和歌山県合同輸血療法委員 ・がん診療拠点病院(相談支援センター業務)担当医
<p>4) 村田</p>	<p>病院委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部(レジメン審査委員会(副)) 総務課(人権・同和対策推進協議会)
<p>5) 細井</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科代表者薬事委員

3 スケジュール表

(1) 医学部生の病棟臨床実習

(追加資料：令和元年度 臨床実習授業評価アンケート結果をまとめたもの)

(2) 血液内科診療の医師勤務表

(3) 5階西病棟の当直医表 (3月)

(1) - (3) は次ページ以降に収録。

(4) 医局行事

1) 週間

月曜日 医局会 (入・退院、連絡事項)、チャートカンファレンス

火曜日 病棟回診

水曜日 研究打合せ、症例検討会、死因検討会、

木曜日 カンファレンス (MGH, CC)

金曜日 HIV カンファレンス (外来)

2) 月間

移植カンファレンス

診療会議 (死因、感染、危機管理、病床運営、投書・広報)

3) 年間

科研費申請 (9月)、年報作成 (3月)、人事 (随時)

(1) 医学部生の病棟臨床実習(通常スケジュール 2 週間)

血液内科									
集合場所：研究棟 10 階 血液内科医局 (内線 5453)									
総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の秘書机に一部提出すること。 (訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。)									
☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆									
日付	8	9	10:30	12:30	13	14	15	16	17～
/	第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 2 週目
(/)	9:00- レポート進捗 状況 報告		症例学習		症例学習		第 2 週目 ※症例学習		チャート
月									カンファ
/	第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		
(/)	第 2 週目 入院患者廻診 (園木教授)		第 2 週目 外来 (園木教授)		症例学習		第 2 週目 14:00-15:00 造血幹細胞移植 (村田講師) 5 西 CR		症例学習
火									
/	第 1 週目 (他科)		第 1 週目 (他科)		第 1 週目 オリエンテーション (園木教授)		症例学習		
(/)	症例学習		症例学習		第 2 週目 14:00-15:00 輸血部実習 (松浪主任)		第 2 週目 15:30-16:30 骨 髄 生 検 シュミレーション (蒸野助教・弘井先生) 5 西 CR		
水									
/	第 2 週目 8:00-	外来・内科診察 (園木教授)		第 1 週目 症例学習※		第 1 週目 症例学習※			
(/)	8:30 カンファレス (CC/ MGH)			第 2 週目 14:00-15:00 血球形態を学ぶ (西川准教授) 5 西 CR		第 2 週目 15:00- HIV 感染症を 把 える (園木教授) 5 西 CR		17:00- イメージ	
木									カンファ
/	症例学習		症例学習		第 1 週目 症例学習※		第 2 週目 16:00- レポ ート 発 表 会 / レポ ート 提 出 (園木教授) 5 西 CR		レンス
(/)					第 2 週目 ※症例学習		※レポートは 2 部、ス ライド資料は全員分 と教官用を準備		
金									

※随時、疾患について討論を行う(園木)

教官から指摘を受けた個所を訂正し、必ず本日中に提出すること(代表者 1 名が取りまとめ提出)

医学部生の病棟臨床実習(コロナ禍スケジュール1週間)

血液内科 研究棟 10階 血液内科医局 (内線 5453)									
総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の机に一部提出すること。 (訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。)									
☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆									
日付	8	9	10	12	13	14	15	16	17～
/ (月)		(他科)				(他科)		16:15- オリエンテー ション (園木教授) 医局	
/ (火)		(他科)				(他科)			
/ (水)		症例学習			症例学習 ※	14:00-15:00 輸血部実習 (松浪主任) 病院棟 3階		15:00-16:00 血球形態を 学ぶ (蒸野助教) 5 西 CR	
/ (木)		9:00- 外来・内科診察 (園木教授) 病院棟 3階			症例学習※		15:00- 15:30 MGH カンファ レンス (園木教 授) 5 西 CR	15:30- 16:00 HIV 感染症 を抱え る。 (園木教授) 5 西 CR	
/ (金)		症例学習				14:00-15:00 造血幹細胞 移植 (村田講師) 5 西 CR		16:00-17:00 総括/レポート提出 (園木教授) 5 西 CR ※レポートは2部、ス ライド資料は全員分を <u>準備</u>	

※随時、疾患について討論を行う (園木)

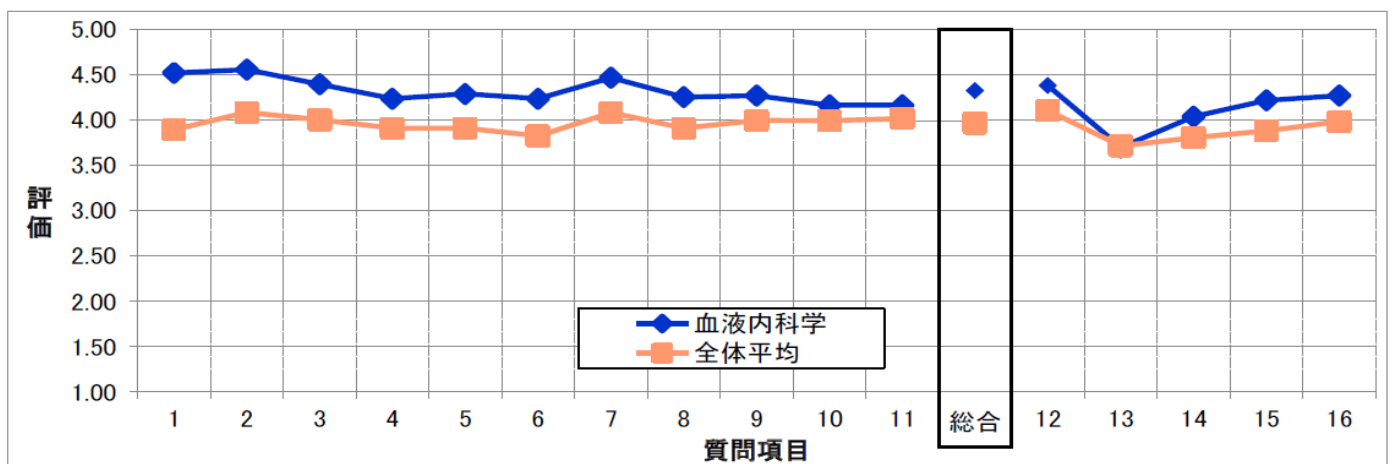
教官から指摘を受けた箇所を訂正し、必ず医局に**本日中**に提出すること。(代表者一名が取りまとめ提出)

令和元年度 臨床実習 授業評価

(回答者数) 56人

質問項目	A										総合	C				D	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16
血液内科学	4.52	4.55	4.39	4.23	4.29	4.23	4.46	4.25	4.27	4.16	4.16	4.32	4.38	3.70	4.04	4.21	4.27
全体平均	3.89	4.08	4.00	3.91	3.91	3.82	4.08	3.91	3.99	3.99	4.01	3.96	4.10	3.71	3.80	3.88	3.98

総合	質問項目 1~11 の平均
	質問項目 1~11 の内、最大値
	質問項目 1~11 の内、最小値



【質問内容】

A 指導医について (まったく思わない①……②……③……④……⑤とても思う)

- 1 指導医と討論する時間が充分にあった。
- 2 親切に接してくれた。
- 3 問題点を見つけるよう適切に指導してくれた。
- 4 時間を厳守するよう適切に指導してくれた。
- 5 実習中の最終目標を明確に示してくれた。
- 6 毎日の目標を示してくれた。
- 7 医学的知識について適切に指導してくれた。
- 8 医学的スキルについて適切に指導してくれた。
- 9 知識・スキルについて誤りがあった場合、注意や指導してくれた。

B セミナーについて(行われなかった場合は記入不要)

- 10 よく準備された教材を使用してくれた。
- 11 病態との関連について適切に説明してくれた。

C 自己評価

- 12 知識が増えた。
- 13 基本的スキルができるようになった。
- 14 診断・治療の選択が可能になった。
- 15 症例の提示(発表)ができるようになった。

D 臨床実習の総合的評価 (悪い①……②……③……④……⑤良い)

- 16 臨床実習を総合的に評価してください。

(2) 血液内科診療の医師勤務表

2021年2月～

	月	火	水	木	金
外来診察1	田村	園木(新患)	田村	園木(新患)	園木
診察2	村田	西川	蒸野	村田	西川
診察3	蒸野(新患)	山下(新患)	栩野	西川	小泉
診察4	山下	弘井	村田(新患)	細井(新患)	田村(新患)
予診室	松山				
処置係	横矢	武田(横矢)	武田(栩野)	横矢	栩野
他病棟当日診察依頼	武田(小浴)	横矢(弘井)	小浴(武田)	栩野(横矢)	弘井(栩野)
予約外当日外来新患 フォローアップ外来	西川	蒸野	村田	細井	
医局行事	医局会 (15:00～15:30)	病棟回診 (8:30～9:30)		MGM (学生実習2週目) (8:00～8:30)	
	第1病理カンファレンス (16:30～)			移植カンファレンス (毎月月末) (17:00～)	
	チャートカンファレンス (15:00～15:30)			症例検討会 (研修医のいる第1-3週)	
				診療会議 (第4週) (17:30～)	

(3) 5階西病棟の当直医表

2021年3月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	3月1日 蒸野	3月2日 弘井	3月3日 横矢	3月4日 山下	3月5日 小浴	3月6日 細井
3月7日 栩野	3月8日 月山(西川)	3月9日 横矢	3月10日 蒸野	3月11日 山下	3月12日 弘井	3月13日 小浴
3月14日 村田	3月15日 横矢	3月16日 栩野	3月17日 細井	3月18日 田村	3月19日 山下	3月20日 弘井
3月21日 横矢	3月22日 西川	3月23日 小浴	3月24日 村田	3月25日 弘井	3月26日 栩野	3月27日 蒸野
3月28日 山下	3月29日 村田	3月30日 小浴	3月31日 栩野			

4 主な活動内容

(1) 学会および研究会

1) 全国学会

西川彰則、蒸野寿紀、田村志宣、赤坂浩司、園木孝志：「遠隔バイタルモニターによる在宅輸血患者観察と心拍変動変数解析」、第68回日本輸血・細胞治療学会学術総会 2020.5 誌上发表

西川彰則：「SS-MIX 2 標準化ストレージを用いたB型肝炎再活性化モニターシステムの汎用化の実際」、第24回日本医療情報学会春季学術大会シンポジウム2020 Web開催 2020.6.6

西川彰則：「SS-MIX 2 をベースとした双方向医療情報連携の現状と今後の展望」、第40回医療情報学連合大会公募シンポジウム、2020.11.19 浜松

山下友佑、森田修平、細井裕樹、赤水尚史、園木孝志、田村志宣。「ERストレスセンサー新規阻害薬KIRA8はIRE1 α XBP1/PLK2 axisを制御することで抗骨髄腫作用を誘導する」、第60回日本リンパ網内系学会総会、Web開催 2020.8.20

村田祥吾、田畑翔太郎、松山依子、吉田菊晃、小浴秀樹、田中 顕、弘井孝幸、大岩健洋、森本将矢、山下友佑、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「赤血球輸血が比較的高齢者の同種造血細胞移植に与える影響」、第82回日本血液学会学術集会 Web開催 2020.10.9~11 京都

蒸野寿紀、小浴秀樹、棚野祐一、田中顕、弘井孝幸、山下友佑、大岩健洋、細井裕樹、村田祥吾、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「単施設における血栓性血小板減少性紫斑病 13 例の後方視的解析」、第 82 回日本血液学会学術集会、Web 開催 2020.10.9~11 京都

Hiroki Hosoi, Shogo Murata, Kikuaki Yoshida, Ken Tanaka, Takayuki Hiroki, Masaya Morimoto, Takehiro Oiwa, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushino, Akinori Nishikawa, Shinobu Tamura, Takashi Sonoki :Safety and efficacy of dose adjusted high-dose chemotherapy with ASCT for the elderly with lymphoma、第 82 回日本血液学会学術集会 Web 開催 2020.10.9~11 京都

Tamura S, Yamashita Y, Orimo T, Iwabuchi S, Nakashima K, Sasaki I, Hemmi H, Hashimoto S, Ohshima K, Kaisho T, Sonoki T : Pathological characterization of Th1-mediated colitis based on primary immunodeficiency. 第82回日本血液学会学術集会 Web開催 2020.10.9~11 京都

蒸野寿紀、西川彰則、弘井孝幸、松山依子、細井裕樹、村田祥吾、田村志宣、園木孝志：「Apple Watch を用いた同種造血幹細胞移植後合併症検出の有用性」、第 43 回日本造血細胞移植学会総会 Web 開催 2021.3.5~7 東京

細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、田畑翔太郎、松山依子、吉田菊晃、赤木佑衣奈、小浴秀樹、田中顕、弘井孝幸、山下友佑、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「レテルモビル投与下の同種造血幹細胞移植後好酸球増多」、第 43 回日本造血細胞移植学会総会 Web 開催 2021.3.5~7 東京

外山 怜、吉野 孝、西川彰則：「スマートグラスを用いた注意喚起情報表示機能を持つ医療安全向上支援システムの提案」、情報処理学会第 83 回全国大会 Web 開催 2021.3.18~20 大阪

2) 地方学会

田畑翔太朗、弘井孝幸、細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「慢性 GVHD 治療中に HSV-2 型髄膜炎を発症し髄液中に Mollaret 細胞を認めた 1 例」、日本内科学会第 230 回近畿地方会、Web 開催 2020.12.12

細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「70 歳以上の悪性リンパ腫患者に対する投与量調整大量化学療法併用の自家移植」、第 48 回和歌山悪性腫瘍研究会、和歌山県立医科大学高度医療人育成センター大研修室 2021.1.30

3) その他 (WEB 研究会等)

田村志宣：「進行期古典的ホジキンリンパ腫に対する A+AVD 療法の注意点～G-CSF 一次予防の重要性について～」、アドセトリス全国 WEB 講演会 2020.7.3、2020.7.9

蒸野寿紀：「当院におけるアイクルシグ処方患者の症例報告」、Hematology Web Seminar in Wakayama 2020.9.17

田村志宣：「濾胞性リンパ腫診療における注意すべき感染症について」、Wakayama Hematology Forum 2020.10.28

蒸野寿紀：「サークリサの使用経験-副作用マネジメントについて-」、サークリサ Interactive ZOOM Webinar In Wakayama 2020.11.20

西川彰則：「ERd 療法により長期継続を維持できている 1 例」、紀州血液/腫瘍/免疫研究会 2020.12.4

西川彰則：「在宅輸血の現状と未来」、Hematology Forum in Kobe 2020.12.12

西川彰則：「医療情報連携基盤(青洲リンク)を利用した遠隔長期フォローアップ外来の試み」厚生労働省 造血細胞移植医療体制整備事業 (広島大学) WEB セミナー 2020.12.19

田村志宣：「合併症・臓器機能障害を有する悪性リンパ腫の治療について」、血液疾患 Basic WEB セミナー 2021.1.22

蒸野寿紀：「血液内科のプライマリ・ケア」、第 2 回明日から役立つ研修医のための Web セミナー 2021.2.5

田村志宣：「多発性骨髄腫の最新診療について」、Rheumatology Hematology cross meeting 2021.2.18

田村志宣：「肺炎球菌感染症の適正診断と適正治療」、感染症 Web セミナー in 和歌山 2021.3.9

田村志宣：「悪性リンパ腫診療の基本からホジキンリンパ腫と末梢性 T 細胞リンパ腫の治療戦略へ」、第 22 回和歌山県病院薬剤師会 2021.3.12

(2) 学術論文

1) 和文原著

田村志宣、古家美昭、堀善和、弘井孝幸、山下友佑、大岩健洋、村田祥吾、蒸野寿紀、西川彰則、花岡伸佳、園木孝志：「和歌山県における発作性夜間ヘモグロビン尿症に対する eculizumab 療法の後方視的検討」臨床血液 61:605-611, 2020

松本真弓、蒸野寿紀、松浦秀哲、西岡純子、山本由加里、笹田裕司、藤島直仁、松本雅則：「日本輸血・細胞治療学会の掲載論文と学術総会演題名から見た看護研究の課題：出版活動支援小委員会からの提言」、日本輸血細胞治療学会誌 66(3)：590-597, 2020

蒸野寿紀、西川彰則、堀善和、小浴秀樹、棚野祐一、吉田菊晃、森本将矢、高木良、上田かやこ、細井裕樹、村田祥吾、田村志宣、園木孝志：「当院におけるテレビ会議システムを用いた遠隔同種移植後長期フォローアップ外来の取り組み」、日本造血細胞移植学会雑誌：1-5, 2021

2) 英文原著

Ito A, Kim SW, Matsuoka KI, Kawakita T, Tanaka T, Inamoto Y, Toubai T, Fujiwara SI, Fukaya M, Kondo T, Sugita J, Nara M, Katsuoka Y, Imai Y, Nakazawa H, Kawashima I, Sakai R, Ishii A, Onizuka M, Takemura T, Terakura S, Iida H, Nakamae M, Higuchi K, Tamura S, Yoshioka S, Togitani K, Kawano N, Suzuki R, Suzumiya J, Izutsu K, Teshima T, Fukuda T. Safety and efficacy of anti-programmed cell death-1 monoclonal antibodies before and after allogeneic hematopoietic cell transplantation for relapsed or refractory Hodgkin lymphoma: a multicenter retrospective study. *Int J Hematol.* 2020, 112:674-689.

Miura K, Tsujimura H, Masaki Y, Iino M, Takizawa J, Maeda Y, Yamamoto K, Tamura S, Yoshida A, Yagi H, Yoshida I, Kitazume K, Masunari T, Choi I, Kakinoki Y, Suzuki R, Yoshino T, Nakamura S, Hatta Y, Yoshida T, Kanno M. Consolidation with ⁹⁰Yttrium-ibritumomab tiuxetan after bendamustine and rituximab for relapsed follicular lymphoma. *Hematol Oncol* 2021, 39:51-59.

Yamashita Y, Morita S, Hosoi H, Kobata H, Kishimoto S, Ishibashi T, Mishima H, Kinoshita A, Backes BJ, Yoshiura KI, Papa FR, Sonoki T, Tamura S. Targeting Adaptive IRE1 α Signaling and PLK2 in Multiple Myeloma: Possible Anti-Tumor Mechanisms of KIRA8 and Nilotinib. *Int J Mol Sci.* 2020 Aug 31;21(17):E6314.

Kazuya Sakai, Masataka Kuwana, Hidenori Tanaka, Kazuyoshi Hosomichi, Atsushi Hasegawa, Hiroki Uyama, Kenji Nishio, Takashi Omae, Masakatsu Hishizawa, Masashi Matsui, Koji Iwato, Akinao Okamoto, Kazuki Okuhiro, Yukiko Yamashita, Masataka Itoh, Hanae Kumekawa, Naoki Takezako, Noriaki Kawano, Toshihiro Matsukawa, Haruna Sano, Kazuiku Ohshiro, Kunio Hayashi, Yasunori Ueda, Toshiki Mushino, Yoshiyuki Ogawa, Yuji Yamada, Mitsuru Murata, Masanori Matsumoto : HLA loci predisposing to immune TTP in Japanese: potential role of the shared ADAMTS13 peptide bound to different HLA-DR. *Blood* 135(26) : 2413-2419, 2020

Hosoi H, Murata S, Mushino T, Nishikawa A, Sonoki T : Eosinophilia during letermovir treatment after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Annals of Hematology* 99(10):2453-2454, 2020.

Hosoi H, Nishikawa S, Kida Y, Kishi T, Murata S, Iwamoto M, Toyoda Y, Yamada Y, Ikeda T, Sonoki T. : Susceptibility of patients receiving chemotherapy for haematological malignancies to scabies. *Journal of Hospital Infection* 106(3):594-599, 2020

Zhou J, Yiyang Quah J, Ng Y, Chooi JY, Hui-Min Toh S, Lin B, Zea Tan T, Hosoi H, Osato M, Seet Q, Ooi LAG, Lindmark B, McHale M, Chng WJ. : ASLAN003, a potent dihydroorotate dehydrogenase inhibitor for differentiation of acute myeloid leukemia. *Haematologica* 105(9):2286-2297, 2020.

Hosoi H, Murata S, Mushino T, Tamura S, Sonoki T : Dose-adjusted high-dose chemotherapy with autologous stem cell transplantation for elderly (> 70 years old) lymphoma patients. *Annals of Hematology* 2021 in press.

Hosoi H, Niibori-Nambu Akiko, Nah GSS, Bahirvani AG, Mok MMH, Sanda T, Kumar AP, Tenen DG, Ito Y, Sonoki T, Osato M. : Super-enhancers for *RUNX3* are required for cell proliferation in EBV-

infected B cell lines. Gene 774; 145421, 2021

3) 症例報告

(英文)

Akagi Y, Murata S, Yamashita Y, Tanaka K, Hiroi T, Mushino T, Hosoi H, Nishikawa A, Tamura S, Sonoki T. : Two Episodes of Transfusion-related Acute Lung Injury (TRALI) Occurring within a Short Period: A Case Report. Intern Med. 2020, 59:2527-2581.

Yamashita Y, Hori Y, Kosako H, Oiwa T, Warigaya K, Mushino T, Murata S, Fujimoto M, Nishikawa A, Murata SI, Sonoki T, Tamura S. : Brentuximab vedotin for refractory anaplastic lymphoma kinase-negative anaplastic large cell lymphoma in leukemic phase with *RUNX3* overexpression. Hematol Rep 2020, 10:7497.

Mushino T, Hiroi T, Yamashita Y, Suzuki N, Mishima H, Ueno M, Kinoshita A, Minami K, Imai K, Yoshiura K, Sonoki T, Tamura S. : Progressive massive splenomegaly in an adult patient with Kabuki syndrome complicated with immune thrombocytopenic purpura] Internal Medicine 2021, Feb 1.

Minakata T, Nakano Y, Tamura S, Kazuki Y, Hayakawa K, Hayakawa T, Oota T, Fujimoto T, Yamano Y, Takii T: Tuberculous Spondylitis Caused by Intravesical Bacillus Calmette-Guerin Therapy. Internal Medicine 2020;59(5):733-737.

Hosoi H, Mushino T, Nakashima K, Kuriyama K, Tamura S, Murata S, Imadome KI, Ohshima K, Sonoki T. : Composite Epstein-Barr virus-associated T-lymphoblastic and peripheral T-cell lymphomas: A clonal study. Internal Medicine 2021 in press.

(和文)

田村志宣、小浴秀樹、堀善和、森本将矢、蒸野寿紀、園木孝志：「シリズムブ治療を施行した肺病変を有する多中心性キャスルマン病3例の検討」、日本呼吸器学会雑誌 9:211-216, 2020

棚野祐一、蒸野寿紀、堀善和、宮本芳行、宮本正興、小山明日美、塩谷千恵子、平康雄大、箕浦直人、田村志宣、中野好夫、園木孝志：「直接経口抗凝固薬 apixaban 関連の後天性第V因子インヒビター」、臨床血液 61(12)：1660-1666, 2020

武田里美、村田祥吾、太根美聡、吉田菊晃、岩元竜太、割栢健史、榊 絢朱、横矢悠馬、田中 顕、棚野祐一、山下友佑、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「右房内腫瘤を契機に診断に至った Erdheim-Chester 病」、臨床血液. 2021;62:91-93

(3) 著書(単行本、シリーズもの含む)

蒸野寿紀、田村志宣：「症例を俯瞰する総合診療医の眼 口腔内潰瘍で紹介された 70 歳女性 診断と治療」108:257-261, 2020

山下友佑、蒸野寿紀、大島孝一、田村志宣：「腸型 T 細胞リンパ腫 (特集 特殊または希少な造血器腫瘍に対する診断・病態と治療)」 Intestinal T-cell lymphoma 血液内科 (科学評論社) 80:687-692, 2020

田村志宣：「合併症・臓器機能障害を有する悪性リンパ腫」悪性リンパ腫治療マニュアル・改訂第5版 (南江堂) 2020

田村志宣：「リンパ腫の診療 update-治療の最新動向-」日本臨床 79 巻 (3)

(4) その他の印刷物(研究成果報告集、学会抄録集、寄稿文など)

西川彰則：「在宅での安全な輸血のサポート ICT（情報通信技術）を用いた診療システムと血液疾患診療」
2020年8月 会報誌「Newsletter ひろば」

(5) 研究費、助成金

園木孝志：令和2年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」

園木孝志：令和2年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）「骨髄異形成症候群の造血障害・遺伝子変異クローン性拡大とNKG2D免疫との関連」

田村志宣：令和2年度科学研究費助成事業 基盤研究(c)「免疫不全を基盤として発症する炎症性腸疾患の病態解明」

西川彰則（研究代表者）：令和2年度日本輸血・細胞治療学会臨床研究推進事業「人工知能を用いた映像分析による在宅輸血の安全向上に関する研究」

西川彰則（研究分担者）：令和2年度厚生労働省血液製剤使用適正化方策調査研究事業「人工知能を用いた行動観察と遠隔モニターシステムの併用による在宅輸血患者の安全性向上」

西川彰則：令和2年度和歌山県立医科大学若手研究支援助成「遠隔システムを用いた在宅診療、輸血の安全性向上のための基礎研究」

村田祥吾：2020年度日本血液学会研究助成「骨髄異形成症候群の病態形成におけるNKG2D免疫の解明」

村田祥吾：令和2年度和歌山県立医科大学若手研究支援助成「NKG2D免疫を指標とした骨髄異形成症候群における免疫病態の解明」

蒸野寿紀：令和2年度科学研究費助成事業 若手研究「移植後後期腹水症の発症機序の解明および新規診断バイオマーカー開発」

細井裕樹：令和2年度科学研究費助成事業 若手研究「悪性リンパ腫における非コードRNA PVT1とPVT1内miRの役割解明」

細井裕樹、園木孝志、他：令和2年度AMED 分担研究「急性骨髄性白血病に対する治験用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験」

細井裕樹：武田科学振興財団2020年度医学系研究助成「悪性リンパ腫におけるmicroRNAとsuper-enhancerに着目したPVT1の役割解明」

山下友佑：令和2年度科学研究費若手研究「CCDC22変異がもたらす免疫応答の変化とEBV-HLH発症・重症化との関連」

(6) 支援研究会 (WEB セミナー) など

和歌山血液学セミナー (協和発酵キリン株式会社主催): 「DLBCL に対する初回治療強度の重要性と支持療法について」、横山洋紀 (東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科 助教) 2020. 7. 3

和歌山血液学セミナー (協和発酵キリン株式会社主催): 「多発性骨髄腫に対する新たな治療アプローチ」、保仙直毅 (大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授) 2020. 7. 3

Otsuka Hematology Web Seminar (大塚製薬株式会社主催): 「移植前後のアイクルシグの当院での使い方」、藤 重夫 (大阪国際がんセンター 血液内科 副部長) 2020. 8. 19

Otsuka Hematology Web Seminar (大塚製薬株式会社主催): 「慢性期 CML におけるボナチニブについて」、藤田真也 (関西医科大学 内科学第一講座 血液呼吸器膠原病感染症内科 講師) 2020. 9. 9

Hematology Web Seminar in Wakayama (大塚製薬株式会社主催): 「実診療におけるアイクルシグの使用経験」、島津 裕 (京都大学医学部附属病院 血液内科) 2020. 9. 17

Hematology Web Seminar in Wakayama (大塚製薬株式会社主催): 「Ph 陽性白血病における第三世代 TKI の位置づけ」、木村晋也 (佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科) 2020. 9. 17

一般外来・地域医療で実践できる「総合診療の心得」 (血液内科主催): 「がんと感染症」、森本将矢 (紀南病院 血液内科) 2020. 9. 18

一般外来・地域医療で実践できる「総合診療の心得」 (血液内科主催): 「Cope に学ぶ診療の勘所」、清田雅智 (飯塚病院 総合診療科 診療部長) 2020. 9. 18

一般外来・地域医療で実践できる「総合診療の心得」 (血液内科主催): 「がんと感染症」、森本将矢 (紀南病院 血液内科) 2020. 9. 18

Bendamustine Meet the Experts in 和歌山 (エーザイ株式会社・シンバイオ製薬株式会社主催): 「Once-Cardiology に関する話題」、矢野真吾 (東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科 教授) 2020. 9. 25

Wakayama Hematology Forum (ブリストルマイヤーズ株式会社主催): 「濾胞性リンパ腫の治療戦略」、福原規子 (東北大学病院 血液内科 講師) 2020. 10. 28

第 10 回紀州血液塾 (中外製薬株式会社主催): 「TTP の治療法は新規治療法によって大きく変わるか?」、松本雅則 (奈良県立医科大学 輸血部) 2020. 11. 6

第 10 回紀州血液塾 (中外製薬株式会社主催): 「インヒビターブースティングに対してリツキシマブを使用した 1 例」、吉田菊晃 (紀南病院 血液内科) 2020. 11. 6

サークリサ Interactive ZOOM Webinar In Wakayama (サノフィ株式会社主催): 「新規抗 CD38 抗体 isatuximab の使いどころを作用機序から考える」、古川雄祐 (自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部 教授) 2020. 11. 20

紀州 血液/腫瘍/免疫研究会 (ブリストルマイヤーズ株式会社セルジーン株式会社主催): 「多発性骨髄腫のモノクローナル抗体療法」、谷脇雅史 (京都府立医科大学 分子診断・治療センター 特任教授) 2020. 12. 4

血液疾患 Basic WEB セミナー（協和発酵キリン株式会社主催）：「多職種で行う抗がん剤投与の安全管理～薬剤師の立場から～」、栗原稔男（紀南病院 薬剤部 主任）2021. 1. 22

第 19 回和歌山造血細胞療法研究会（アステラス製薬株式会社共催）：「造血幹細胞移植における多職種連携と HCTC の役割」、中矢由紀（愛媛県立中央病院 看護部）、ホテルグランヴィア和歌山、2021. 2. 13 和歌山

第 19 回和歌山造血細胞療法研究会（アステラス製薬株式会社共催）：「HLA 不適合移植の展望と野望」、池亀和博（兵庫医科大学病院 血液内科）、ホテルグランヴィア和歌山、2021. 2. 13 和歌山

Hematology Special Web Lecture（大塚製薬株式会社）：「悪性リンパ腫の自家移植」、近藤忠一（京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科 講師）2021. 3. 24

5 診療実績

(1)	入院	患者総 (のべ) 数 (一時退院後を含む)	404 名
	退院	患者総 (のべ) 数 (一時退院を含む)	428 名
(2)	外来	患者総 (のべ) 数	8870 名
		新規患者数 (病院集計)	222 名

入院患者疾病別分類 (入院のみ, 重複あり, 疑い症例を含む)

	のべ入院数	新規入院数
1) 白血病	87	27
急性骨髄性		
M2	20	5
M5	4	2
M6	1	1
M7	4	0
AML-MR C	25	7
t-AML	1	0
急性リンパ性(ALL)	18	3
慢性リンパ性(CLL,SLL,PLL)	2	1
慢性骨髄性白血病(CML)	12	8
2) 骨髄異形成症候群 (MDS)	27	15
3) 多発性骨髄腫 (MM)	44	15
4) リンパ性腫瘍	210	82
DLBCL	83	35
FL	20	12
PCNSL	22	6
HL	15	4
ATLL	14	4
AITL	6	2
IVLBCL	10	4
ALCL	1	1
MCL	6	1
MALT	2	0
PTCL	2	1
BCL	5	2
LPL	6	2
PBL	1	0
PMBL	6	0

	のべ入院数	新規入院数
バーキットリンパ腫	1	1
NHL	1	1
NK/T 細胞リンパ腫	3	1
MEITL	1	1
小リンパ球性リンパ腫	1	1
悪性リンパ腫疑い	4	4
5) 血球減少症 (造血不全含む)		
再生不良性貧血 (AA)	11	8
発作性夜間へモグロビン尿症(PNH)	2	1
汎血球減少症	3	3
血小板減少症 (ITP)	7	5
6) 溶血疾患		
自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)	1	1
7) その他		
造血幹細胞移植ドナー入院	6	6
原発マクログロブリン血症 (WM)	7	3
原発性アミロイドーシス	8	5
形質細胞様樹状細胞腫瘍	7	1
POST-PV/MF	1	1
白血球減少症	1	1
HIV	2	1
POEMS 症候群	1	0
TAFRO 症候群	1	1
ネフローゼ症候群	1	1
本態性血小板血症 (ET)	2	0
エルドハイム・チェスター病	1	1
リンパ節腫脹	1	1
腹腔内リンパ節腫脹	1	1
アナフィラキシー	1	0
後天性血友病	2	2
肺炎	2	0
誤嚥性肺炎	1	1
腎盂腎炎	1	0
多発溶血性病変	1	1
二次性 TMA	1	1
心不全	1	1
不明熱	1	1

(3)	造血幹細胞移植(2020.1~12)		
1)	自家移植	16	
2)	血縁	3	
3)	非血縁	18	
(4)	死亡	15	
(5)	剖検 (率)	4	(26%)

2020年4/1~2021年3/31 外来新規患者の疾患名と患者数(疑い症例を含む)

1)	白血病	
	M4	1
	M5	1
	AML-MRC	4
	急性リンパ性白血病(ALL)	3
	慢性骨髄性白血病(CML)	7
	慢性リンパ性白血病(CLL)	1
2)	骨髄異形成症候群 (MDS)	37
	MDS 疑い	3
3)	多発性骨髄腫 (MM)	13
	MM 疑い	4
4)	リンパ性腫瘍	
	DLBCL	26
	FL	9
	ATLL	4
	MALT	4
	PTCL	1
	PCNSL	4
	HL	6
	BCL	1
	LPL	1
	MCL	1
	ALCL	2
	IVLBCL	3
	バーキット	1
	MTX-LPD	2
	MTX-LPD 疑い	1
	NK/Tリンパ腫	1
	胃マルトリリンパ腫	3
	右眼瞼悪性リンパ腫	1
	低悪性度リンパ腫	2

	悪性リンパ腫疑い	12
5)	血小板減少症	13
	I T P	10
	I T P 疑い	2
	慢性特発性血小板減少性紫斑病	1
	薬剤性血小板減少症	2
	続発性血小板減少症	2
	偽性血小板減少症	1
	血小板単独減少症	
	二次性血小板減少症	3
6)	貧血	7
	鉄欠乏性貧血	9
	溶血性貧血	7
	再生不良性貧血	2
	AA-PNH	1
	巨赤芽球性貧血	4
	正球性貧血	3
	二次性貧血	2
	大球性貧血	7
	小球性貧血	2
	腎性貧血	3
7)	多血症	4
	二次性多血症	5
	真性多血症	1
8)	好酸球増多症(HPS)	7
	特発性好酸球増多症	2
	薬剤性好酸球増多症	1
	続発性赤血球増加症	2
9)	その他	
	H I V 感染症	7
	H I V 擬陽性	1
	H I V 疑い	1
	汎血球減少症	16
	白血球増多症	11
	白血球減少症	4
	白血球高値	1
	二次性血球増加	1
	薬剤性好中球減少症	2

好中球増加症	1
伝染性単核球症	2
本態性血小板血症 (E T)	12
反応性血小板増多	1
骨髄繊維症	1
原発性マクログロブリン血症 (WM)	6
血友病	2
A T III 欠損症	1
DIC	3
単クローン性免疫マクログロブリン血症 (MGUS)	6
高ガンマグロブリン血症	1
H T L V-1	2
H T L V-2	1
EB ウイルス感染症	1
sIL-2R 高値	8
アミロイドーシス	6
サルコイドーシス	1
A T P P 延長	4
単純性紫斑病	1
老人性紫斑	1
肺炎	1
サラセミア	1
ICUS	1
リンパ節腫大	3
リンパ節腫張	1
全身リンパ節腫大	1
腹腔内リンパ節腫大	2
骨盤内リンパ節腫大	1
頸部リンパ節腫大	2
口腔咽頭リンパ節	1
反応性リンパ節腫大	3
縦隔リンパ節腫大	4
MTX 関連リンパ増殖性疾患	2
胃がん	2
前立腺がん	1
喉頭腫瘍	1
脳腫瘍	1
子宮頸がん	1

後腹膜腫瘍	1
胚細胞腫瘍	1
エーラス・ダンロス症候群	1
エルドハイム・チェスター病	1
PS 欠乏症	1
ヘモグロビン異常値	2
血小板機能異常症	1
薬事性肝障害	1
JAK2 変異陽性真性赤血球増加症	1
ネフローゼ症候群	2
M タンパク血症	3
高タンパク血症	1
多発溶骨性病変	1
免疫異常	1
横断性脊髄炎	1
回盲部腫瘍	1
サイトメガロウイルス感染症疑い	1
CAEBM 感染症疑い	1
菌状息肉症	1
末しょう神経障害	1
異常白血球分化	1
骨髄炎疑い	1
プロテイン S 血症疑い	1
ヘリコバクター・ピロリ感染症	1
凝固因子欠乏症	1
IgG 関連	5
無症候性抗リン脂質症候群	1
関節リウマチ	1
結核性腹膜炎疑い	1
Hb 低値	1
顆粒球減少症	1
無顆粒球症	1
後天性赤芽球ろう	1
猫ひっかき病	1
右ぶどう膜炎	1
第 12 因子活性低値	1
クリオグロブリン血症	1
不明熱	5

6 リーダーレポート

2020年度を振り返って 新型コロナウイルス感染症に振り回された1年

准教授・医局長 田村志宣

2019年12月終わりから全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症。旧正月を祝うために、中国武漢の大勢の方々が、駅や空港から移動している姿を、2020年1月下旬のある夕方ニュースで目の当たりにしました。その時、何かしら大変なことが起こるのではないかと嫌な予感がしました。そして、ダイヤモンドプリンセス号、和歌山県での初の病院クラスター、全国で緊急事態宣言など、一気に身近なものとなってしまいました。新型コロナウイルス感染症は想像以上に拡大し、第1波、第2波、そして、第3波まで押し寄せてきました。これまでの生活が一転し、自宅での自粛生活を強いられたうえ、全ての研究会・講演会・学会、そして講義までオンラインにシフトしてしまいました。通勤で使用する特急“くろしお”も減便になってしまい、通勤所要時間が増えました。オンライン会議やWeb講演でのやり取りは慣れれば、快適なところもありますが、やっぱり何かしら寂しさを感じます。そして、他府県に住んでいる親族や友人に直接会えないのも寂しいものですし、県外へ旅行・外出することさえもできず、すごく閉塞感を感じています。2020年度は、本当に明るい話題がし難い1年間であったと、振り返って思いました。

私自身も、第2波の初めに、本学のコロナ診療チームのリーダーに任命され、紀北分院のコロナ外来・病棟診療の応援を度々するようになりました（写真あり）。血液内科・抗がん剤治療に従事する私が、コロナ診療にここまで深く関わるとは予想していませんでした。5月連休以降、本院の外来・病棟業務を急に空けることが多くなり、その度に血液内科医局員の方々には大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りて、心からお詫びとお礼を申し上げます。その紀北分院の勤務は、軽症から中等症の新型コロナウイルス感染症の診療が中心でした。しかしながら、時折増悪する重症例については、ICU管理できる病院へ転院搬送していました。症状も特にない陽性例が、血中酸素飽和度が急激に低下し、緊急CT検査で全肺野に異常陰影が拡大していることも度々経験しました。高齢者例や有症状の中年例は、血中酸素飽和度に関係なく、肺CTを撮影しましたが、肺異常陰影はほぼ必発でした。紀北分院でのコロナ診療を経験することで、本当に怖いウイルスだと実感しました。ただ、ウイルス自体はとても怖かったのですが、紀北分院の診療は正直楽しかったです。理由の一つ目に、紀北分院の医療スタッフも皆さん協力的で、かつ、プロ意識をもってコロナ診療にあたっていたことです。そして、親しみやすく、非常にアットホームでした。二つ目に、呼吸器内科・一般内科医として、久しぶりに従事し、紀北分院の皆さんに頼りにされたことです。肺CTの読影コンサルトはとても嬉しかったです。三つ目に、紀北分院周辺の空気が美味しく、山も川も綺麗だったことです。シューズを持参して、紀の川の堤防沿いを人気のない早朝にランニングしましたが、とても快適でした。新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、紀北分院の近くの川でバーベキューをやりに行きたいと思っています。紀北分院でコロナ診療できたことは、東北大震災救護班の従事と同じく、私の医者人生の糧になっています。そして、このコロナ禍が早く落ち着くことを切に願い、もう少し何かしらコロナ診療でお力添えができればとも思っております。

さて、そんな暗いコロナ禍の1年間でも、嬉しい出来事がいくつかありました。今年も3名の優秀な先生が、当科に入局してくれました。岡村雅先生（和医大卒）、谷河育朗先生（和医大卒）、寺本寛先生（近大卒）です。3名とも初期研修医で当科研修時から熱心に勉強・診療され、スタッフ・患者さんからの評判もとても良かったことを記憶しております。優秀な医局員が増えていくことは、学内外に当科のactivityを指し示すことができるいい機会になります。私の好きな戦国武将である、甲斐の武田信玄の言葉を借りると、「人は石垣、人は城、人は堀」という考え方に通じるものがあります。「人は、石垣、城、堀などと同じくらい、戦で重要である」という意味です。私たちの分野では、“戦”は“診療”に置き換えることができます。和歌山県の血液内科診療を底上げするには、優秀な人材の確保が重要で

す。そして、医局員が十分に能力を発揮するための育成プログラムと環境づくりが次の重要なことだと考えます。さらに、「人は石垣、人は城、人は堀」の後には、「情けは味方、仇は敵なり」と文章が続きます。これは、「権力で押し付けるのではなく、信頼し、情けをかけることで、士気と忠誠心が高まる」という意味になります。この言葉のごとく、ストレスを感じさない、風通しのいい医局づくりができれば、優秀な人材がさらに育成される環境ができると信じています。まだ手探りですが、若い先生たちと話し合いをもちつつ、いろいろ取り組んで行きたいと考えています。中でも、専攻医登録評価システム・J-OSLERにおける、当科の医局員・専攻医の症例確保や病歴要約作成などは、最も取り組むべき懸案事項です。当科の専攻医の先生が遅滞なくプログラム修了ができるように、医局スタッフとも相談し、配慮していきたくと考えています。

嬉しい出来事の一つとして、大学院生の山下先生が、論文が受理され、学位が授与されたことです。討議会も、この4年間の集大成として立派な発表だったと思います。研究テーマは、“多発性骨髄腫の新たな抗腫瘍メカニズム”になります。私が基礎研究をしていた15年前とは大学院生制度が随分様変わりし、如何にして学位授与させることができるのか五里霧中であったことは事実です。しかし、山下先生の絶え間ない努力と多くの先生たちの厚いご支援があり、ここまで漕ぎ着けることができました。特に、兵庫医大に異動された皮膚科の金澤先生、生体調節機構研究部の改正先生、第一内科の森田先生には、大変お世話になりましたことをここに深謝申し上げます。学位授与までの道のりは険しいものでしたが、若い先生たちのいい見本になったと思っています。そして、臨床の分野に加えて、基礎研究の分野も、そのノウハウが伝承できつつある環境になりました。基礎研究で築き上げてきた人（もしくは、教室）との繋がりはとても重要であり、共同研究がさらに広がっていくことを予感しています。

“Bedside to bench, bench to bedside”の精神は忘れずに、さらに発展させた研究テーマを考え、国内外へアピールしていきたいと考えています。現在、私のチームでは、“病原性T細胞による炎症性疾患の発生メカニズム”と“ERストレス機構に着目したB細胞性腫瘍の病態解明”が主な研究テーマとしております（他にもいろいろテーマを準備しています）。マウス検体とヒト検体の両方をハイブリッドさせた分子生物学的な解析が主になります。もし、興味がある若い先生が居られれば、お声かけ頂ければ幸いです。

私自身のことでは、日本呼吸器学会の指導医を取得できたことが嬉しかった出来事の一つになります。微力ですが、院内のインфекション・コントロール・チーム（ICT）の仕事に携わっています。ICTの前次長であった呼吸器内科・赤松啓一郎先生の勧めと推薦で取得することができました。赤松啓一郎先生、本当に有難う御座いました。ただ、取得の要件を満たすためには、前年度の半年間で、呼吸器関連の学会で3回の発表、及び、論文発表を1回報告する必要がありました。論文発表はともかく、血液内科医が、呼吸器の地方会や総会（コロナ禍の前）に参加して発表することは、少し抵抗感がありました。しかしながら、いざ学会に参加すると、前任地の紀南病院で指導した研修医で、呼吸器科に進んで活躍している若い先生たちに数年ぶりにお会いすることができて、非常に嬉しかったことを覚えております。この指導医の取得以降は、二刀一流の剣豪・宮本武蔵が「武士道」を戦のなくなった江戸時代・前期で広めていったように、血液内科と呼吸器内科の指導医として「内科道」たるものを県下の若い内科医の先生たちに広めていければと思っています。さらに、宮本武蔵が書した五輪書には、「一流の道、初心のものにおゐて、太刀・刀両手に持て、道を仕習ふ事、実の所也。一命を捨（すつ）る時は、道具を残さず役にたてたきもの也。道具を役にたてず腰に納めて死する事、本意に有べからず」と二刀流を勧める理由が記載されていました。詳しい意味はさておき、簡単に言えば、「太刀や脇差でも、戦の時は使えるものは全て使っていこう」という意味です。これは、身体をくまなく診る必要がある日常臨床にも相通じるところがあります。私でいえば、血液内科診療の中で、呼吸器内科の専門的な知識を常に反映させる努力を怠らないことを心がけることです。これらマインドを忘れず、さらに「内科道」を究めていきたいですし、若い先生に伝承したいと思っています。

少し固い話になりましたが、来年度も和歌山県立医科大学血液内科学講座を、学内外に広くアピールできる医局運営ができればと思っています。そして、そのために何を優先的に為せば良いのか、俯瞰的に医局全体で考えていきたいと思っています。私自身、2021年7月で大学に赴任して、もう5年が経ちました。何かしらカタチになるものを次の世代に残したいとも思っています。皆様方のご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、最後にいつも何かしら写真を載せていますので、二つほど紹介したいと思います。一つは、紀北分院のコロナ診療の様子です。紀北分院では、コロナ診療だけでなく、新型コロナウイルス感染症の感染制御の講義と急変時の対応について実習を行いました。もう一つは、和歌山医大血液内科のWeb新年会の様子です。2021年1月3日にWeb新年会が開催され、多くの医局員が参加しました。来年度は、対面での集まり（忘年会など）ができればと切に願っております。



紀北分院での活動（コロナ陽性例の急変時対応の指導、院内スタッフのPCR検査採取）



血液内科Web新年会（2021. 1. 3）

新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言で幕を開けた2020年度であったが、約1年経った現状でも感染状態は収束する気配はなく、唯一明るい兆しは、ワクチンが開発されたことである。1年を振り返ると軒並み学会は中止もしくはオンライン開催となり、職場での対面での親睦会などがなくなり生活の基盤が一変したといっても過言ではない。

私個人については、4月より医療情報部長を拝命し、コロナ蔓延による診療機能停止の可能性を考え、電子カルテを病院外から参照できる仕組みの構築や、病院連携、病診連携を進めるにあたり医療情報連携（青洲リンク）の利活用に尽力した1年であった。その他、病院内の業務としては、バイオバンク立ち上げに向けてのシステム検討、癌治療におけるリアルワールドデータ収集を目的としたCyber Oncologyシステムの導入など院内横断的な業務が増えた。研究に関しては、在宅輸血患者の安全管理の目的に人工知能を用いた危険行動検出システムの構築を進めており、こちらは日本輸血・細胞治療学会から研究費を頂くことができた。また臨床現場での医療安全向上のために、スマートグラスで認識した映像を人工知能を用いて医療場면을特定し、それに適した注意喚起メッセージを出力するシステムを和歌山大学システム工学部の吉野先生と共同で進める機会が得られた。本研究については、現在特許出願中である。更に和歌山県のアフターコロナ事業に採択され、病棟などの3密を防ぐ目的に、スマートグラス型の電子カルテ作成に着手している。その他これから着手する研究として、ニプロ株式会社と共同で、テレメトリー型心電図を用いた化学療法・移植患者の状態変化を予想するためのプロジェクトを検討している。変わり種としては、匂いセンサーを開発している会社と共同で喀痰などの起炎菌を匂いから同定する研究を計画中である。複数の匂い強度のスペクトラムと起炎菌を機械学習し、培養結果を待つことなしに起炎菌を想定することを考えている。応用範囲として、移植中のアスペルギルス感染症などは培養検査ではなかなか同定しにくいのが、匂いから可能性が示唆できれば臨床的にも有効ではないかと考えている。中断しているプロジェクトとして、多発性骨髄腫の血球形態と予後の関係（染色体異常と形態の相関）、フィラデルフィア染色体陽性ALLと通常のALLの形態を機械学習することでフィラデルフィア陽性ALLを検出することなどであり、これは来年度は進めたい課題である。

診療面に目を向けると、来期も途絶えることなく新たな入局者に恵まれ、有難い限りである。血液内科も少しずつ大きな医局となり、様々なキャリアパスを考えていかななくてはならない。診療、研究に加えて女性医師の働き方改革など調整していくべきことは山積みであるが、医局一丸となってこのコロナの時代を乗り切っていけるものと信じている。

窮屈な一年を振り返って

講師・病棟医長 村田 祥吾

2001年に大学に入学し、この春でちょうど20年になる。人は一年間を年齢分の一の長さに感じると言われるが、昨年のリーダーレポートにコロナ禍のことを書いたのがつい最近のこのように感じてしまう40歳の春である。今年度はタイトルの通り、大変窮屈で、我慢、我慢の一年間であった。血液内科としての歓迎会、送別会、納涼会、忘年会などは全て中止となり、大勢で集まって、楽しくワイワイと盛り上がった頃を懐かしく感じる日々を過ごした。学会も全てWeb開催となり、生の講演を聞くことや大勢の前で発表する機会のない一年間であった。ただ、この新しい生活様式も慣れてくると悪いことばかりではなく、出張費や交際費は例年よりも大きく削減できた財布に優しい側面もあった。おそらくワクチン接種が完了するこの先一年程は今の生活様式が持続するのだろう。出費はかさむが、やはり一日も早く以前のような生活へ戻れることを願って止まない。

今年度は昨年度からの病棟医長の役職に加え、7月からは講師も拝命した。より責任の伴う立場として、少なからずのプレッシャーを感じながら職務に就いてきた。今年度は岡部先生、榊先生、武田先生、横矢先生の4人の入局者を迎え、自治医大出身の榎野先生も4月から医大で共に働くこととなった。毎年感じることはあるが、血液内科に入局してくれる先生は熱い気持ちと強い信念をもって仕事に取り組んでくれる。今年度は全体のカンファレンスや教授回診、勉強会などは制限しながらの実施であった。やる気ある若い先生達に満足できる指導が行届いていたのか、少し不安になるとともに申し訳なさも感じる。一方で、半ば血液バカになってしまっている自分より広い知識を持った若い先生から学ぶことも多く、刺激を受けながら日々の診療にあたってきた。若く、優秀な先生が毎年入局してくれる中、上級医、専攻医の垣根なく、お互いが高め合えるように自由に意見を言い合える環境を作っていきたい。そのためには、我々指導医が若い先生達の考えを尊重し、受け入れる姿勢をさらに培っていく必要があると思う。そうは言いつつも、人を育てるのはとても難しいことだ。それぞれ性格や考え方、育ってきた環境も違うのだから当然のことではあるが…。来年からは入局者に西野カナの歌のように「トリセツ」を提出してもらうのも新しい試みとしておもしろいかもしれない。

今年のNHK大河ドラマは渋沢栄一の生涯を描いた「青天を衝け」だ。彼の有名な言葉に「四十、五十は洩垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えがきたら百まで待てと追い返せ。」というものがある。私が入局した頃に比べると人は増え、医局としても大きく、立派になった血液内科だが、所詮はまだまだ「洩垂れ小僧」の集まりに過ぎないのだ。我が家の2歳になった四男でさえ、最近ではあまり鼻を垂らさなくなったのだが…。

年報に寄せて～2020 年度を振り返る～

助教 蒸野 寿紀

2020 年度は、いろいろな学会や研究会が次々中止となり、なんとなく過ぎて行った失われた 1 年といった印象です。

病棟のチームでは大岩先生が 6 月末で退職され、7 月から弘井先生が海南医療センターから戻ってきました。大岩先生は”立派な往診ができる医者になる”という目標を語って去られましたが、その目標が達成できるよう、新天地での活躍を祈っています。また、弘井先生は抜群の安定感で俯瞰的に病棟診療を支えてくれました。海南医療センターに異動されるので寂しい限りです。後期研修医としては 4 月から 12 月は榊先生が、1 月からは横矢先生が頑張ってくれました。榊先生は重症の患者さんに真摯に向き合い、スタッフ・患者さんからの信頼が厚かったです。横矢先生は学生時代から知っており、同じチームで成長が感じられ嬉しく思っています。研修医の先生は、池田先生・藤原先生・立石先生・根来先生・石本先生・大江先生にローテートして頂きましたが、どの先生もとても優秀でした。自分が研修医の時を振り返り、大きな実力の差を感じています。

学会発表では、日本血液学会で TTP 症例の後方視的解析、日本造血細胞移植学会で Apple Watch の脈拍検出に関する内容を発表しました。いずれもオンライン開催で、なんとなく不完全燃焼の感じでした。

紀南病院に整備した遠隔 LTFU 外来についての内容は、日本造血細胞移植学会雑誌に短報として掲載されました。西川先生、上田さん、高木さんにはいつもご尽力頂き、感謝しています。また、紀南病院で経験した後天性第 V 因子インヒビター症例を榊野先生に臨床血液に報告してもらいました。私自身は、歌舞伎症候群の脾摘の症例を田村先生ご指導のもと、Internal Medicine に報告しました。また、昨年より日本輸血・細胞治療学会出版活動支援小委員会に参加させて頂きましたが、学会演題名をテキストマイニングの手法で解析した論文の作成に関与しました。後天性 TTP の HLA に関する論文で Blood の共著に名前が入ったことも嬉しかったです。この研究は 52 例中 6 例が和歌山医大の症例でした。

JCOG の PTCL/ATL 小委員会では、PTCL および ATL に対する新規臨床試験に関する提案を行いました。残念ながら研究事務局候補からは外れましたが、リンパ腫グループで和歌山医大をアピールできたかと考えています。G-CSF 適正使用ガイドラインワーキンググループでは、システマティックレビュー作業を行いました。PBSCH に関する CQ では、791 件の論文から 65 件まで絞る作業が苦勞しました。また、個別研究のエビデンス評価もかなり大変な作業でしたが、ガイドラインの作成過程を経験できた貴重な経験となりました。

このように 2020 年度は雑多な業務をした年でした。来年はコロナも収まり、もう少し深く何かに打ち込むような年にしたいと思います。

2020 年度は皆さんが書かれていると思いますが、新型コロナウイルス感染症が診療に大きく影響しました。当科では田村先生が感染症対策に一番活躍されていたと思います。若い先生方も外来、入院患者さんの PCR 検査などコロナウイルス関係の診療に度々協力してくれました。外来医長を担当しておりましたので、コロナウイルス対応の影響で今年は代診の機会が多かったと実感しています。血液疾患診療は外来受診に関しては比較的コロナウイルス感染症からの影響を受けにくい方ではあったと思いますが、入院患者さんの面会制限などで患者さんやご家族には原疾患の治療以外の面でいつも以上に御苦勞が多くなりました。教育面では 4 年生に対する授業が Web 形式となり、私も初めて Web での講義を行いました。聴講者の反応が見れないため、授業の進行速度が適切であるかを判断するのが難しかったです。臨床実習にも多くの制限がかかり、病棟患者さんと直接関われなかった学生は実習の目標を立てにくかったであろうと思います。私は学生実習では選択ポリクリに対する検鏡実習を担当しましたが、学生は積極的に発言してくれましたし、血液内科のことをよく勉強していました。今後ワクチン接種は進んでくるでしょうが、変異株の出現などの要因もあり、しばらくは混乱した状態が続くように思います。外来診療についてはいつも快く代診のお願いに応じて頂いている先生方、外来診療のスムーズな進行の要である外来看護師さん、クラークさんに感謝しています。

病棟業務では今年度は棚野先生、小浴先生と診療にあたりました。お二人とも他病院から当院に戻ってこられましたので、他病院で勉強した経験なども教えてもらい私自身も刺激を受けました。今年も多く研修医の先生がローテートしてくれました。ローテートしてくれた初期研修医の先生は優秀な先生が多く、しっかりと新たな知識を身につけながら病棟業務をこなしてくれたと思います。後期研修医の先生も非常に優秀で、3 年目の先生方も高度な移植治療についての知識をも豊富に持ってくれています。私が後期研修医になった時は、まだ移植治療が当院で本格的に始まったばかりの時でしたので、私自身も看護師さんを含めた周りの医療スタッフも手探りで診療を進めていたように思います。若い先生方や医療スタッフの対応をみると、今はかなり移植治療体制が確立してきたと感じています。今後さらに、安全で有効性の高い移植治療を提供できるように改善していきたいと思います。

研究に関しては、基礎研究については悪性リンパ腫発症における *PVTI* の役割に焦点をあてて行っておりますが、なかなか進まず歯痒い思いをしております。一方で、今年度は以前に臨床で経験したことを少しずつまとめて *letter* を含めて数報発表することができました。臨床で得た経験も報告しつつ、来年度は基礎研究に関しても少しずつ進めてまとめていきたいと思っております。

2020 年度を振り返って

輸血部 主任 松浪美佐子

2020 年度を振り返ってみると、たぶん世界中の誰もが同じことを思うのでしょうか、新型コロナウイルス感染拡大の 1 年でした。日常生活では外出自粛要請、3 密の回避やソーシャルディスタンスなど色々な制限を求められました。また、医療スタッフとして感染対策に労力を割きながら、新しく入ってくる情報に対応を求められる 1 年でした。今は、ワクチン接種による効果に期待しながらも、リバウンドが起こる危機感を持ち、気を緩めず、決して慣れずに感染防止対策を行っていく時期だと感じています。リモートやオンラインでの会議・学会など、便利で人と接触せずに交流できるツールが急速に進化し、日常生活に入ってきました。でもやっぱりいつか多くの制限が解除され、病院の面会規制が無くなって入院している患者さんも家族も、会いたいときに会えたり、私たちが友人・職場の同僚たちと楽しい時間を過ごせる日が来るといいなと思います。

輸血部の 2020 年度の成績は、振り返って見てみると、あまりよい成績だったとはいえないかもしれません。今年度 1 年間の血液製剤（RBC、PC、FFP）の購入金額は約 3.7 億円でした。そのうち、廃棄処分したのは 163 万円となり、廃棄率は 0.44%です。昨年度は 0.36%でした。他の大学病院と比べ決して高い数字ではありませんが、目標である血液製剤の廃棄削減どころか、3 年連続の増加となってしまいました。廃棄になった理由としては、①血小板を取り寄せ後使用しなかった（1 本 8 万円ほどします）。②不慣れな職員の過剰発注（AB 型の RBC はあまりオーダーが無いいため期限切れとなる）。③管理区域外への持ち出し（ER からアンギオ室に持ち出して室温で放置される）。などなど様々なものがあります。患者さんの急変によるものなど予測不可能なものもありますが、私たちが製剤を発注する時や、医師に手渡す時に少し気を付けて注意を促すことで、防げていた廃棄もあるかと思います。来年度も引き続き職員のトレーニングや、輸血療法委員会での呼びかけを通して廃棄率削減に取り組んでいきたいと思っています。

また、FFP の使用量が多いためなかなか取得できない適正使用加算の取得ですが、これを取得すると、年に 350 万～400 万の増収となります。FFP/RBC 比が 0.54 未満になればいいのですが、今年度は一度 0.51 となった月がありましたが、それ以外は 0.55～0.62 というあと一歩の結果となりました。大量出血時・血漿交換療法時に FFP を多く使用するため、他の大学病院でも取得に難渋しているようですが、今後も園木教授はじめ血液内科の先生方にアドバイスを頂きながら、適正使用加算を取得し、病院経営に貢献できたらと思っています。

輸血部は、認定輸血検査技師・細胞治療認定管理師 2 名を含む 5 名で輸血業務を行っています。コロナの影響で学会や認定試験の中止なども多い 1 年でしたが、知識・技術の向上を忘れずに来年度も安全で適正な輸血医療を提供できるように努力していきます。

前任の木村師長より、5 階西病棟を引き継いだ 4 月、新型コロナウイルス感染症の可能性がある患者さんが PCU に入室する体制が継続されていました。感染予防への責任の重さと緊張の連続で、春を感じる余裕もなく日々が過ぎていきました。それは、看護スタッフも同じ思いで「血液疾患の患者さんに感染させてはいけない」と危機感をもって業務にあたってくれていました。慣れない病棟管理とコロナ対策で、悩み落ち込み、時々思考停止していましたが、先生方には随分助けていただきました。

渦中の 4 月に新人看護師 5 名が入職しました。新人看護師の初々しさに元気を貰い、先輩看護師からの厳しくも愛情いっぱいの指導に応えて、ずいぶん成長してくれました。残念ながら現在 4 名となりましたが、勉強熱心な 4 人がこれから立派な看護師として成長してくれることが楽しみです。先輩看護師も今まで経験したことがない状況、面会制限による患者・家族との関係性で悩むことも多かったと思いますが、試行錯誤しつつ患者さんの思いを大切に看護してくれていました。それも 2 名の副看護師長が多忙な病棟業務の中、立ち止まって看護を考える機会をもってくれていた力が大きかったと思います。

2020 年度を通じて病棟全体で取り組んだことは、学習会チームでの活動です。5 チームに分かれて、年間を通じてテーマ別に知識を深めていきました。先生方のご協力があり、血液内科の入院化学療法パンフレットの改訂ができました。次年度は、パンフレット指導を受けた患者のセルフケアが向上できると期待しています。治療成績の向上により、長く病気と付き合いながら生活している患者さんが増加しています。不安なく退院していただけるよう生活の質を考えられる看護師を育成していきたいと考えています。

また、院内看護研究会での遠隔 LTFU 外来の成果発表や、HCTC 資格の取得等移植に関する人材育成にも取り組むことができました。また、小浴先生には年間を通じて移植の学習会を開催していただき、知識を深めることができました。

華岡青洲の言葉で、「みんなで見ると夢は一味違う」仲間とともに仕事を進めると、ひとりで取り組んだ時よりも大きな成果が得られるというものがあります。5 階西病棟もそのような病棟を目指していきたいと思います。

あっという間に 1 年が経ちました。この 1 年、園木先生、諸先生方や看護スタッフに助けをいただき病棟運営をおこなうことができましたこと、心より感謝申し上げます。

今年度もレポートをという連絡をいただきました。今年度とは振り返るとともかくにも COVID に翻弄された 1 年でした。1 年で済めばよいですが、まだ、しばらくは右往左往するのでしょうか。でも、きっとよかったねと言える日が来ることを願ってもう少し頑張らしましょう。

そのコロナ禍の中では、学会も研修も中止を余儀なくされ参加できず、知識や技術を習得する機会が制限されました。病棟内でも看護師などスタッフの行動制限やマスクや物品の使用の制限はもちろんですが、患者さんの家族への面会の制限、中止にともなって、病院の決まりと家族の思いの狭間で看護師も揺れ、ジレンマ、葛藤がありました。患者さんにとっては家族の面会が心のよりどころとなっているところに、面会禁止となっていて、医師や看護師から相談されるたびに日々、個々の事例ごとに悩み判断してきました。これに関しては、今もどう対応すべきか悩む日々が続いています。

そのような中でも、できたこと、良かったことを考えて挙げてみました。まずは、今年度新人看護師が 5 人と多く入ってきました。夕方になるとリーダーと新人看護師のみという状況のなかでも、一人もかけることなく 2 年目にそれぞれ課題をもって進むことができました。

また、11 階東病棟では、煩雑な業務の中でも患者さんのことを考えて一緒に看護を実施できるように、カンファレンスの充実を掲げてきました。それが、ようやく実を結び始め、定番のテーマではなく、タイムリーな患者さんのこのテーマでというような内容で検討することができ始め、うれしく思っています。これからも継続してさらに看護の質向上にできることを期待しています。

私は、今年度で異動となります。11 階東ではしばらく病棟勤務を外れていたため慣れることからでしたが、何とか 3 年間働くことができました。

これは、まぎれもなく 11 階東で一緒に働いてくれた先生方や看護師のスタッフのおかげだと思います。ありがとうございました。

☆2020 年度を振り返って☆

薬剤部 佐武愛実

私は病院薬剤師として2年3ヶ月の間、整形外科を主とした8西病棟を担当し、2020年7月には5西病棟の担当になりました。外科とは全くイメージのかけ離れた診療科に担当となり不安な気持ちもありましたが、先生や看護師さん、他のスタッフの方々に支えられここまで来ることができました。実際に血液内科の病棟で働くことになり、患者さんの服薬アドヒアランスに合わせた服薬方法を考え、カンファレンスに参加することでスタッフの方々と連携をとりながらチームの一員として患者さんへの医療提供に貢献できたことに大変やりがいを感じた次第です。

かつて病院薬剤師は調剤業務や製剤、薬品管理を主とした業務を行なっていましたが近年、病棟での薬剤指導や当院でも導入されている「入院前お薬確認」など薬剤師に求められる業務内容は幅広くなっています。「入院前お薬確認」の対象診療科も開始当初と比べて増加しており、今では平均370件/月行われています。入院前から休薬が必要な薬剤の確認をすることで中止漏れを防ぎ予定通りに検査や手術が行えるというメリットがあり薬剤師の正確性も求められています。また、当院では医薬品適正使用推進や医療安全の観点から服薬情報提供書（トレーシングレポート）を導入しています。トレーシングレポートとは保険薬局でアドヒアランスや残薬調整、粉碎や一包化への変更の必要性などといった情報を医師にフィードバックするレポートです。保険薬局で即時性は低いものの処方医師へ情報提供が望ましいと判断された内容が当院薬剤部にレポートにて提出され、その内容を薬剤部で集約し処方医へ情報伝達することで情報の共有化も図っています。

2021年4月に和歌山県立医科大学薬学部が開設されることになりました。今回の開設で県内の薬剤師数が増えることが期待され、更に医師や看護師などの他職種連携を進め薬剤師としての職務を発揮できる機会が多くなります。和歌山で働く身として今回の開設により県内の薬剤師数が増え、薬剤師が医療提供に少しでも貢献できる機会が増えることを私も期待しています。

最後に5西病棟で働かせていただき自分自信とても成長することができ貴重な年となりました。先生や看護師さん、その他のスタッフの方々にはいつもご支援いただき心から感謝しております。今後も皆様のご発展とご活躍を期待しております。

7 寄稿文

当科における2020年度を振り返って

和歌山ろうさい病院 血液内科 阪口 臨

COVID-19 に対応すべく、県内で一早く PCR センターを開設した当院には、様々なところから感染対策の依頼が舞い込んできました。院内感染対策チーム（ICT）の活動として、各スタッフが手分けして対応する中、

10 月に智辯学園和歌山の小学6年生と中学3年生への“修学旅行における感染対策”の出張授業に参りました。病院長の計らいがあったのですが、OB としてこの上ない幸せな時間を頂戴し、感無量です。

また、週一でスタッフとの入院患者カンファレンスや研修医の受け入れ、不定期でのスタッフ向けの血内ゼミを継続しました。業務に悩殺される中、立ち止まる瞬間や私の背中を見せる時間、疾患の勉強タイムとしました。

次いで、緩和ケアのチームラウンド（PCT）にも参画しました。週1回ですが、私自身のできる範囲で活動しています。PEACEの緩和ケア研修会も2月でしたが、COVID-19の感染拡大に気を配りながら、他施設からの参加も拒まず、司会や講師を無事終えることができました。

さらに、輸血療法に関する研修会を院内スタッフ向けに当科で主催しました。先行している抗がん剤薬物療法での認定制度と同様に、スタッフによる実地での施行や観察の実務について初めての認定制とし、その充実を図り出しました。

最後になりましたが、貴医局より週一回診療応援をくださった弘井先生には、いつもご面倒をおかけしました。ここに御礼申し上げます。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

2021.3



左から 臨（今春50）・舞（小5）・盤（年中）・潤（小3）

海南医療センター内科医勤務をしている田中顕です。医師6年目の若輩者ですが、海南医療センターの血液診療をお任せ頂けたことに責任を感じながらも大きな問題を起こすことなく、何とかやってこられました。これも今まで当院に赴任された諸先生方の残された血液診療の基盤と和歌山医大血液内科の先生方のご協力の上で成り立っていることを痛感しており、この場を借りて、まず皆さまに感謝申し上げます。

当院では2014年から血液内科医師の常勤医が派遣されるようになり、現在は血液内科医常勤2名(田中顕、田畑翔太朗先生)体制で診療を行っています。ここでは私が赴任した2020年7月から2021年1月にかけて7か月間の海南医療センターでの診療についてご報告させて頂こうと思います。

まず外来についてですが、当院の血液内科外来は和歌山医大の園木教授と細井助教と私が血液専門外来を行っており、新専門医制度世代でもう1人の血液内科常勤医である田畑先生には内科新患外来を担当してもらっています。血液内科担当医師の外来患者数は年々増加傾向となっており、私が赴任して7か月で1305名(救急外来担当症例も含む)の外来の診療を行ってきました。世間はCOVID-19の流行により外来・入院患者数を減らしている中で我々の内科・血液内科診療はこの荒波に飲み込まれることなく頑張っているのではないかと自負しております。

次に入院についてです。入院総数は7か月間で196名、うち血液疾患83名(新規患者数49名)でした。血液疾患患者の年齢は例年通りやはり高齢者が多く、悪性リンパ腫化学療法目的が最も多いのも例年通りです。非血液疾患患者数も増加しており、新専門医制度世代の田畑先生が内科新患外来を行っていることや稀な疾患や専門性の高い疾患については他の内科スタッフからの指導を受けながら診療を行っていることがその一因であると思います。実際に田畑先生と私の入院・外来症例を合わせるとJ-Oslerで定められている経験すべき症例の約9割弱(61/70)を経験できております。これも内科常勤医に消化器・呼吸器・循環器・腎臓・糖尿病の専門医がいるおかげであると思います。次ページに我々が入院で治療した疾患を記載いたします。新専門医世代の先生方の診療のご参考にさせていただければ幸いです。

その他、週に1回の血液内科患者について多職種カンファレンス(医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、MSWなど)を行っています。高齢者の化学療法が多く、血液診療の手薄な地域の患者の化学療法も行っており、環境調整の重要性も大きいので、非常に助かっています。昨年度から行われるようになった病理専門医・検査技師との骨髄スメア、骨髄クロット、骨髄生検を検討するカンファレンスも継続して行っています。また、当院で実際に診療を行う上で、救急重症患者への対応や病棟急変対応の現場でスタッフ間の連携の悪さや知識不足などを感じることも多々ありました。そこで和歌山医大血液内科で訓練・勉強したことを活かして田畑先生と私で一次～二次救命処置についての講義や研修を行いました(両名ともICLSインストラクターなので、あくまで院内教育であり、ICLSコース開催ではありません)。

最後に2021年度の当院の常勤医は4月からは田畑先生に代わり弘井孝幸先生が、7月からは私に代わり古家美昭先生が着任される予定です。2人とも当院での勤務経験があり、ますます海南医療センターの血液診療が発展することと思います。今後ともご指導・ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

①消化器		⑥呼吸器		⑩膠原病と類縁疾患	
・十二指腸潰瘍	1	・細菌性肺炎	13	・偽痛風	1
・大腸ポリープ	9	・誤嚥性肺炎	10	・顕微鏡的多発血管炎	1
・大腸癌	1	・膿胸	1		
・虚血性腸炎	1	・特発性器質化肺炎	1	⑪感染症	
・ウイルス性腸炎	1	・原発性肺炎	1	・COVID-19	1
・細菌性腸炎	1	・慢性呼吸不全	1	・流行性耳下腺炎	1
・肝硬変	2	・睡眠時無呼吸症候群	1	・肺炎球菌性肺炎	2
				・サルモネラ腸炎	1
・肝膿瘍	1	⑦血液		⑫その他	
・急性胆管炎	2	・AA	1	・不安障害	1
・急性胆嚢炎	1	・二次性貧血	1	・食道裂孔ヘルニア	1
・肝細胞癌	1	・DLBCL(新規 18)	29	・腸腰筋膿瘍	1
・急性膵炎	1	・FL(新規 1)	6	・蜂窩織炎	1
・膵頭部癌	1	・IVLBCL(新規 1)	5	・筋膜炎	1
②循環器		・MALT	1	・化膿性脊髄炎	1
・高血圧緊張症	1	・TCRLBCL(新規 1)	3	・CRBSI(ポート感染)	1
・頻脈性心房細動	1	・PCNSL	1	・頭部外傷	1
・徐脈頻脈症候群	1	・ALCL(新規 1)	2	・ジギタリス中毒	1
・大動脈弁狭窄症	2	・AITL(新規 1)	5	・乳癌	1
・深部静脈血栓症	1	・ATLL	1	・偶発的低体温	1
・慢性心不全増悪	2	・CLL(新規 1)	2	・FN	5
		・AML(新規 3)	4	・敗血性ショック	2
③内分泌		・MDS	2	・CPAOA	1
・甲状腺機能低下症	1	・CML	3		
		・MM(新規 6)	12		
④代謝		・AL アミロイドーシス	1		
・2型糖尿病	1	・薬剤性無顆粒球症	1		
・HHS	1	・ITP	2		
		・後天性血友病 A	1		
⑤腎臓		⑧神経			
・急性腎障害	1	・脳梗塞	8		
・ネフローゼ症候群	1	・TIA	1		
・脱水症	2				
・低 Na 血症	1	⑨アレルギー			
・腎盂腎炎	10	・好酸球性消化管疾患	1		

2012 年卒の森本将矢と申します。現在は紀南病院血液内科で診療させて頂いています。私は和歌山医大での初期研修修了後に東京の聖路加国際病院で内科シニアレジデント→血液内科/感染症科フェローとしてトレーニングさせて頂き、2019 年より和歌山に戻って参りました。初期研修医時代より将来がん感染症の分野で仕事をしたいと考えておりましたが、卒後 3 年目の進路を決める際に当時は当科医局員が非常に少ない状況であったにも関わらず、東京に行く私の選択を皆様に応援して頂いたことは誠に感謝しております。本当にありがとうございました。聖路加国際病院は決して血液内科が有名な病院ではありませんが、診療科や卒後年数関係なく全国・世界から猛者が集まってくる場所であり大変刺激的な毎日を送らせて頂きました。現在は聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科で Master of Public Health(MPH)の修士課程を選択しており今年度の卒業にむけて研鑽して参ります。

2019 年 4 月より 9 月まで和歌山医大血液内科、同年 10 月からは紀南病院血液内科で勤務させて頂いています。紀南病院血液内科は田村志宣先生から堀善和先生、私と引き継がせて頂きました。堀先生は国立がん研究センター中央病院でご活躍中で今後一緒に働けることを楽しみにしています。また毎週火曜日に田村志宣先生、水曜日に岡本幸春先生、金曜日に蒸野寿紀先生に外来診療を支えて頂いております。2020 年 6 月までは小浴秀樹先生、2020 年 7 月からは吉田菊晃先生、10 月から松山依子先生という優秀で元気な若手の先生と一緒に働き大変楽しく過ごさせて頂いています。2021 年 4 月からは横矢悠馬先生が常勤でいらっしゃり、新入局員の谷河育朗先生と寺本寛先生がそれぞれ週 1 回研修に来てくれます。これから若手の先生の数が増えていき、若手教育やカンファレンス勉強会などを交えながら、和歌山の患者さんの診療を皆でサポートできるような環境作りをできればと思います。

当科は全国的にみれば人数が少なく影響力はまだ大きくないですが、毎年優秀な若手の先生が入局してくれており今後の成長が本当に楽しみです。投資の世界でいえばテスラを超えるほどのテンバガー株、グロース株です。それぞれの先生が日々勉強し自分の輝ける分野を見つけ研鑽を続け、将来的に和歌山から世界にどんどん情報発信していきたいです。去年は我々の生活が激変し大変な一年でしたが、今年も皆さんで協力して良い診療・良い教育を行っていきましょう。今後ともどうぞよろしくお願い致します。